

23. 馬鈴薯毒 Solanin に関する実験的研究

和洋女子大文家政 川村 一男

○田口 秀子

福田千穂子

1. 馬鈴薯がその発芽時に、芽及び之の周囲組織に Solanin なる毒素を有することは広く知られているが、之についての系統的な記載をした報告が少ないので、著者等は追及を試みた。

2. 馬鈴薯を一定条件のもとに放置し、その発芽速度を観察すると共に、発芽時期及び季節による毒力を生物学的方法により測定し、また併せて発芽馬鈴薯の各部位に於ける毒力の有無及び強弱について検討を行った。その結果を要約すると次の如くなる。

3. (1)発芽馬鈴薯中の Solanin 含有量は、その芽の部分及びその周囲の皮下組織中に多量に含有せられ、他の実質組織中には全く含有されない。(2) Solanin 毒素は芽の周囲の皮下組織に比して所謂芽の方に多く含有されている。(3) Solanin 毒素の毒性は季節的に変動を示す。即ち春期(3月~5月)が強く、8月~9月のが弱い。(4)また Solanin 毒素の毒性は若芽に多く、陳旧な芽になる程毒力も低下してくる。(5) Solanin 毒素は、加熱によって分解され無害とる。ただし100°Cで少くとも20分以上の加熱でなければその安全な効果は期待出来ない。